

科目名	理学療法科学特講
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	理学療法科学領域における主要な理論、概念に精通し、理学療法科学領域の学問を深め、現在の理学療法の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。本講義では、領域の最新の理論、知識、技術を修得し、新たな理学療法の理論構築と実践応用について文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。
到達目標	1. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究手法を学び、自身の研究に応用できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション、教員紹介 第 2 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 3 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 4 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 5 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 6 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 7 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 8 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 9 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 10 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 11 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 12 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 13 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 14 回：文献紹介、課題発表、ディスカッション 第 15 回：まとめ <担当教員名> 矢倉千昭 矢倉千昭 矢倉千昭 矢倉千昭 矢倉千昭 吉本好延 吉本好延 吉本好延 有菌信一 有菌信一 有菌信一 大城昌平 大城昌平 大城昌平 矢倉千昭 授業内容は、授業参加者の関心のある分野・領域に関連した事柄を取り上げ進めます。 第 1 回～7 回まで、関連分野の最新の論文を抄読し、研究課題とその解決理論と方法について討論を行います。毎回少なくとも 1 本の論文を抄読し、授業に参加してください。 研究進捗状況報告会、研究計画検討会前には、受講生と全教員が参加して、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。

学修方法	関連テキスト，論文等の検索と抄読，発表とディスカッション
評価方法	授業におけるプレゼンテーション（50％），研究計画の立案（50％）
課題に対するフィードバック	課題発表後、グループ討議したのち、教員よりフィードバックします。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し，課題を明らかにして，独創的な研究テーマと研究方法を検討する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	理学療法科学特講演習																																
科目責任者	矢倉千昭																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター																																
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。																																
科目概要	理学療法科学領域の課題とそれを解決するための理論や方法論に関する知識をもとに、研究計画の立案、研究実施に向けた研究体制の構築を行います。本講義では、文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。																																
到達目標	2. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究計画を立案し、実施することができる。																																
授業計画	<担当教員名> 矢倉千昭, 大城昌平, 有蘭信一, 吉本好延 (指導教員が中心に授業を展開し、教員全員が参加する検討会が行われる) <table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td><td><担当教員名></td></tr> <tr> <td>第 1 回: オリエンテーション</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 2 回: 研究テーマの設定①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 3 回: 研究テーマの設定②</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 4 回: 研究テーマの設定③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 5 回: 研究テーマの設定④</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 6 回: 研究概念枠組みの作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 7 回: 研究概念枠組みの作成②</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 8 回: 研究概念枠組みの作成③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 9 回: 研究概念枠組みの作成④</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 10 回: 研究計画の作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 11 回: 研究計画の作成②検討会</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第 12 回: 研究計画の作成③</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 13 回: 研究計画の作成④検討会</td><td>教員全員</td></tr> <tr> <td>第 14 回: 倫理申請書の作成①</td><td>指導教員</td></tr> <tr> <td>第 15 回: 倫理申請書の作成②</td><td>指導教員</td></tr> </table> 研究進捗状況報告会、研究計画検討会前には、受講生と全教員が参加して、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回: オリエンテーション	指導教員	第 2 回: 研究テーマの設定①	指導教員	第 3 回: 研究テーマの設定②	指導教員	第 4 回: 研究テーマの設定③	指導教員	第 5 回: 研究テーマの設定④	指導教員	第 6 回: 研究概念枠組みの作成①	指導教員	第 7 回: 研究概念枠組みの作成②	指導教員	第 8 回: 研究概念枠組みの作成③	指導教員	第 9 回: 研究概念枠組みの作成④	指導教員	第 10 回: 研究計画の作成①	指導教員	第 11 回: 研究計画の作成②検討会	教員全員	第 12 回: 研究計画の作成③	指導教員	第 13 回: 研究計画の作成④検討会	教員全員	第 14 回: 倫理申請書の作成①	指導教員	第 15 回: 倫理申請書の作成②	指導教員
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回: オリエンテーション	指導教員																																
第 2 回: 研究テーマの設定①	指導教員																																
第 3 回: 研究テーマの設定②	指導教員																																
第 4 回: 研究テーマの設定③	指導教員																																
第 5 回: 研究テーマの設定④	指導教員																																
第 6 回: 研究概念枠組みの作成①	指導教員																																
第 7 回: 研究概念枠組みの作成②	指導教員																																
第 8 回: 研究概念枠組みの作成③	指導教員																																
第 9 回: 研究概念枠組みの作成④	指導教員																																
第 10 回: 研究計画の作成①	指導教員																																
第 11 回: 研究計画の作成②検討会	教員全員																																
第 12 回: 研究計画の作成③	指導教員																																
第 13 回: 研究計画の作成④検討会	教員全員																																
第 14 回: 倫理申請書の作成①	指導教員																																
第 15 回: 倫理申請書の作成②	指導教員																																

学修方法	関連テキスト，論文等の検索と抄読，研究テーマの立案，研究計画書（倫理委員会申請書も含む）の作成，研究の実施
評価方法	プレゼンテーション（30%），研究計画の立案（30%），研究計画書（倫理委員会申請書も含む）の完成（30%），研究の実施（20%）
課題に対するフィードバック	課題発表後、グループ討議したのち、教員よりフィードバックします。研究計画書と倫理申請書の作成には個別に指導します。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し，独創的な研究テーマと研究方法を検討し，研究計画書を完成させ，研究を実施する．
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	理学療法開発学特講		
科目責任者	有 菌 信一		
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春		
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。		
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法学領域の学問を深め、現在の理学療法の課題とそれを解決するための理論や方法論について考察する。本講義では、領域の最新の理論、知識、技術を修得し、新たな理学療法の理論構築と実践応用について文献を調べ、まとめ、発表、ディスカッションを行い、これらを通して知識を深めます。		
到達目標	3. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性、研究課題を探索し、課題解決に向けた研究手法を学び、自身の研究に応用できる。		
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>
	第 1 回	: オリエンテーション	有菌信一
	第 2 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	有菌信一
	第 3 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	有菌信一
	第 4 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	有菌信一
	第 5 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	有菌信一
	第 6 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第 7 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第 8 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第 9 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	矢倉千昭
	第 10 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	大城昌平
	第 11 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	大城昌平
	第 12 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	吉本好延
	第 13 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	吉本好延
	第 14 回	: 文献紹介, 課題発表, ディスカッション	吉本好延
	第 15 回	まとめ	吉本好延
	授業内容は、授業参加者の関心のある分野・路湯息に関連した事柄を取り上げ進めます。		

学修方法	第1回～7回まで、関連分野の最新の論文を抄読し、研究課題とその解決理論と方法について討論を行います。毎回少なくとも1本の論文を抄読し、授業に参加してください。 研究進捗状況報告会、研究計画検討会前には、受講生と全教員が参加して、各自の研究課題、研究計画の発表会を行います。
評価方法	授業におけるプレゼンテーション（50%）、研究計画の立案（50%）
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し、課題を明らかにして、独創的な研究テーマと研究方法を検討する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	理学療法開発学特講演習		
科目責任者	有菌 信一		
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋		
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。		
科目概要	神経系、運動器系および内部系障害の理学療法学領域の課題とそれを解決するための理論や方法論に関する知識をもとに、研究計画の立案，研究実施に向けた研究体制の構築を行います．本講義では、文献を調べ，まとめ，発表，ディスカッションを行い，これらを通して知識を深めます．		
到達目標	4. 科学的諸理論を背景とした理学療法の科学性，研究課題を探索し，課題解決に向けた研究計画を立案し，実施することができる．		
授業計画	 <		

学修方法	・研究進捗状況報告会，研究計画検討会前には，受講生と全教員が参加して，各自の研究課題，研究計画の発表会を行います．
評価方法	プレゼンテーション（30％），研究計画の立案（30％），研究計画書（倫理委員会申請書も含む）の完成（30％），研究の実施（20％）
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし
事前・事後学修	自身の興味関心分野の論文等を検索し，独創的な研究テーマと研究方法を検討し，研究計画書を完成させ，研究を実施する．
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 研究室：3503 研究室 時間については，初回授業時に提示します． 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください．

科目名	理学療法学特別研究	
研究指導教員	吉本好延、有薊信一、大城昌平、矢倉千昭	
研究指導教員		
単位数他	6 単位（180 時間） 選択 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	研究計画書にもとづき、データ集や論文作成など研究プロセスを経験し、科学的根拠に基づいた理学療法評価・治療の立案を目的とした臨床理学療法研究を行い、博士論文を作成する。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋semester：研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）
	2 年次秋semester：適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	3 年次春semester：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	論文の完成度(70%) 第3者の評価による修正の貞節性(30%)
	3 年次秋semester：第3者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度(70%) 第3者の評価による修正の貞節性(30%)

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、積極的な授業参加をお願いします。
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学習は、研究の方法論だけでなく、研究者としての態度や倫理について書籍やメディアを通じて学んでください。事後学習は、研究の方法論や論文作成方法などを復習し、どのようにすれば自分の主張を他者に伝達し、理解を促すことができるのかを模索してください。
オフィスアワー	初回授業時に提示

科目名	作業療法科学特講
科目責任者	小田原悦子
単位数他	2単位 (30 時間) 春semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	作業療法専門職に貢献する研究の基礎となる作業科学及び作業療法所理論について、その概念枠組み、研究法について学ぶ
到達目標	・ 作業科学及び作業療法の主要な論理について学ぶ ・ 作業療法関連の評価を学ぶ ・ 作業科学及び作業療法の研究を学ぶ
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回： 科学オリエンテーション：このコース全体の説明 小田原悦子 第 2 回： 学問としての作業科学と臨床について 小田原悦子 第 3 回： 科学革命の構造と作業療法パラダイム（1） 宮前珠子 第 4 回： 科学革命の構造と作業療法パラダイム（2） 宮前珠子 第 5 回： 多様な作業科学の視点 （1） 小田原悦子 第 6 回： 多様な作業科学の視点 （2） 小田原悦子 第 7 回： 理論の発展と理論の範囲 （1） 宮前珠子 第 8 回： 理論の発展と理論の範囲 （2） 宮前珠子 第 9 回： 最近の作業科学の研究動向 （1） 小田原悦子 第 10 回： 最近の作業科学の研究動向 （2） 小田原悦子 第 11 回： 学問の序列と作業療法の特徴（1） 宮前珠子 第 12 回： 学問の序列と作業療法の特徴（1） 宮前珠子 第 13 回： 人の生活・現象を研究する（1） 濱畑章子 第 14 回： 人の生活・現象を研究する（2） 濱畑章子 第 15 回： 学生抄読 小田原悦子

学修方法	発表・ディスカッションを使ったアクティブラーニングと講義
評価方法	授業・ディスカッションへの参加(発言内容・論理性・量・態度)：50% 発表とレジュメ：25% レポート：25%
課題に対するフィードバック	学生の発表後クラスでディスカッションし、発表及び各学生の発言内容について担当教員がコメントする 提出されたレポートについて、学生の研究関心を広げる指導目的でコメントする
指定図書	1. 作業科学：Zenke & Clark 編1999, 三輪書店 2. キールホフナー：作業療法実践の理論。医学書院2014
参考書	1. トーマスン：科学革命の構造。みすず書房 2. チェックランド：新しいシステムアプローチ。オーム社 3. 宮前珠子：作業療法理論の成り立ちと位置づけ。作業療法のとらえ方 part 2。1-9.。文光堂 4. 人間作業モデル：Kielhofner、2012, 協同医書 5. 作業療法の視点：カナダOT協会、2000, 大学教育出版 6. クライアント中心の作業療法：Baptist、2000, 協同医書
事前・事後学修	教科書、参考書、資料等を読み、レジュメにまとめる
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科 5604研究室 時間については、初回授業時にお伝えします

科目名	作業療法科学特講演習
科目責任者	宮前珠子
単位数他	1 単位 (30 時間) 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究疑問を出発点として、関連する作業療法ならびに作業行動領域の文献をレビューし、研究の動向、研究方法についての理解を深め、研究計画を立案し、倫理申請の準備をする
到達目標	各種研究法と研究プロセスについて広く深く理解し説明できる c 作業療法における重要な新規性ある課題について深く理解し、自身の研究テーマと結びつけることができる A 研究計画書を作成し、倫理申請の準備をする P
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 研究方法と研究のプロセス 第 2 回：研究疑問の発表とディスカッション 第 3 回： // 第 4 回：関心テーマについて発表とディスカッション 第 5 回： // 第 6 回：研究課題についての発表とディスカッション 第 7 回： // 第 8 回： // 第 9 回：研究方法についての発表とディスカッション 第 10 回： // 第 11 回： // 第 12 回：研究計画書についての発表とディスカッション 第 13 回： // 第 14 回： // 第 15 回： まとめ

学修方法	ディスカッション、発表
評価方法	発表内容 20% ディスカッションへの参加（発言内容・論理性・量・態度）：20% 研究計画書の完成度：60%
課題に対するフィードバック	口頭によるフィードバック、書面提出物についてはコメントを記し、迅速に返却する
指定図書	酒井聡樹：これから論文を書く若者のために、共立出版 2002
事前・事後学修	1. 酒井聡樹：これから学会発表する若者のために、2008 2. 土屋雅子他：看護・医療系研究のためのアンケート・面接ガイド、診断と治療社、2011 3. 対馬栄輝：医療系研究論文の読み方とまとめ方、東京図書、2010 4. ホロウェイ他：ナースのための質的研究入門、第2版、医学書院、2006 5. 才木クレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール、医学書院、2008 6. 佐久川肇：質的研究のための現象学入門、医学書院、2009 箕浦康子：フィールドワーク入門、ミネルヴァ書房、1999 7. トーマス・クーン：科学革命の構造、みすず書房、1971 8. 矢野眞和：生活時間の社会学、東京大学出版会、1995 9. チェックランド：新しいシステムアプローチ、オーム社、1985 10. Hassulkuus, B.R.: The meaning of everyday occupation. Slack, 2002 11. 西條剛央：ライブ講義質的研究とは何か、新曜社、2007 12. 木下康仁：グラウンデッドセオリーアプローチの実践、弘文社、2003 13. 木下康仁、分野別実践編グラウンデッドセオリーアプローチ、弘文社、2005
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科 5604研究室 時間については、初回授業時にお伝えします。

科目名	作業療法科学特講演習
科目責任者	小田原悦子
単位数他	1 単位 (30 時間) 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	作業科学の概念を使った、作業療法領域に貢献する先行研究の研究法を検討する。 自分の研究の興味を深めるために、作業、経験を理解するための方法論を理解し、自分の研究に役立てるため小規模な研究を実践する。
到達目標	作業的存在理解のための研究法としてよく使われる、質的研究、現象学的研究、ナラティブ法について学ぶ。自分の研究では、どのように利用できるか検討する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：第 1 回 研究法と論文執筆について 第 2～7 回 作業科学研究の動向を追いながら、以下の領域を研究した文献における研究疑問とその研究法を検討する 1. 作業の要素 2. 作業の過程 3. そのほかの現象との関連 第 8 回 学生抄読 2～7 回の授業で検討した文献を参考に、自分の研究疑問と方法を絞り込む。 第 9 回 現象学的研究について 第 10～14 回 方法としてのナラティブについて ナラティブについての理論と分析実践 第 15 回 学生によるミニスタディの発表

学修方法	講義、発表、ディスカッション
評価方法	授業態度 20%、発表 40%、レポート 40%
課題に対するフィードバック	学生が自分の研究関心に基づいて、先行研究を購読し、そこにある概念と方法について発表し、自分の研究計画に役立てる。
指定図書	Zemke & Clark 編 「作業科学」、 グレッグ、麻原、横山 著「質的研究の進め方・まとめ方」
参考書	必要な時に紹介する
事前・事後学修	1, 9, 10 回は指定図書の対応する部分を読んでから授業に参加する。 2~7 回は、初回授業の時に配布する資料を読んでから参加する。
オフィスアワー	科目責任者は、リハビリテーション科学、小田原悦子です。研究室は 3516 研究室です。オフィスアワーの曜日と時間は初回授業時間に提示します。

科目名	作業療法開発学特講	
科目責任者	新宮 尚人	
単位数他	2 単位(30 時間) 春	
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。	
科目概要	本講座では、作業療法関連領域における実践的課題の吟味と効果的な介入方法を探求する。これまでに学んだ研究方法論を知識基盤とし、よりアウトカムを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究計画書作成への足掛かりとすることを旨とする。	
到達目標	・各専門領域における保健医療福祉の具体的課題と治療・介入戦略について説明できる。 ・介入効果の検証、新たな治療・介入戦略への構築など、より高いレベルの研究デザインについて説明できる。	
授業計画	担当教員：新宮尚人、伊藤信寿、田島明子	
	各専門領域における最新の研究動向と実践的課題について、ディスカッションにより吟味する。履修生は、それを踏まえ関連する国内・外の文献を読み、内容について簡単なレジュメを作成して紹介する。文献を通じて、研究の独創性、研究デザインの妥当性、研究の到達レベルの確認など、批判的抄読を行うことで自身の研究計画立案の足がかりとする。	
	※少なくとも1つの領域で1文献を紹介する。	
	履修生の専攻・関心により文献選択の相談に応じる。	
	第1回. コースオリエンテーション	新宮尚人
	第2回. 精神障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	新宮尚人
	第3回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	新宮尚人
	第4回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	新宮尚人
	第5回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	新宮尚人
	第6回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 4、まとめ	新宮尚人
	第7回. 発達障害リハビリテーションにおける最新の研究動向と課題	伊藤信寿
	第8回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	伊藤信寿
	第9回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	伊藤信寿
	第10回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3 まとめ	伊藤信寿
	第11回. 作業療法研究に社会学・障害学の視点を活かす	田島明子
	第12回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 1	田島明子
	第13回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 2	田島明子
	第14回. 関連文献の紹介と研究デザイン・内容の検討 3	田島明子
	第15回. まとめ	新宮尚人

学修方法	各自の研究テーマに沿った文献（原則として英文）を読み、履修学生が順番に発表者となり、レジュメを作成して紹介する。
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。
指定図書	特に指定しない
参考書	授業中に随時提示する
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特講演習
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1 単位 (30 時間) 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	精神・発達障害に伴う不自由さを抱える対象者に対して、作業療法の実践的課題を明確化し支援の効果的な方法を確立するために、具体的な研究テーマの設定と研究計画書を作成することを主目標とする。さらに、研究計画書に基づき、データ収集から論文作成までの一連の過程をマネジメントし、独力で研究できる能力を修得することを目指す。
到達目標	・最新の研究に基づいて、新規性のある研究計画書を作成できる。 ・研究計画書に基づき、適切なデータ収集と分析ができる。 ・研究成果を論文にまとめ、発表することが出来る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 担当教員：新宮尚人 研究テーマに関連した論文を精読することにより、研究到達度の確認と研究目的に対する方法を吟味する。これらを通じて具体的な研究計画書を作成し、データ収集の経過報告、データ分析、博士論文の執筆までを行う。計画書の作成後は、主として個別指導の形で進める。 ※授業日程は、受講者との相談の上、決定する 第1回. コースオリエンテーション 第2回. 研究計画書に基づいた研究プロセスの確認 第3回. 研究データ収集の準備 第4回. 研究データ収集の準備 第5回. 研究データ収集 第6回. 研究データ収集 第7回. 研究データ収集 第8回. 研究結果の整理 第9回. 研究結果の整理 第10回. 研究結果の整理 第11回. 研究結果の解釈（考察） 第12回. 研究結果の解釈（考察） 第13回. 博士論文の提出に向けての指導 第14回. 博士論文の提出に向けての指導 第15回. 博士論文の提出に向けての指導

学修方法	自身の興味に関連した論文を精読し、研究方法（対象、手続き、評価尺度、分析方法など）を吟味することを通じて、具体的な研究計画書を作成します。
評価方法	計画書の完成度（90%）と、ディスカッションへの参加状況（10%）により評価する
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。
指定図書	特に指定しない
参考書	授業中に随時提示する
事前・事後学修	事前学習では、研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください。事後学習では、授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（naohito-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業療法開発学特講演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (30 時間) 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	これまでに学んだ研究方法論を知識基盤とし、研究テーマを意識した研究デザインの構築や独創性のある研究デザインを作成することを目指す。
到達目標	1. 研究テーマに関する保健医療福祉の付帯的課題と治療・介入戦略について説明出来る 2. 研究テーマにおける介入効果の検証、新たな治療・介入連略への構築など、より高いレベルの研究デザインを作成することができる
授業計画	関心をもつ研究テーマについて、文献検索、内容について簡単なレジュメを作成して紹介し、ディスカッションする。さらに、各領域における関心のある研究テーマについて、研究デザインを作成、検討する。 第1回. コースオリエンテーション 第2回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読1 第3回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読2 第4回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読3 第5回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読4 第6回. 研究テーマについて、文献検索、文献抄読5 第7回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討1 第8回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討2 第9回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討3 第10回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討4 第11回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討5 第12回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討6 第13回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討7 第14回. 研究テーマにおける研究デザインの作成・検討8 第15回. 全体のまとめ

学修方法	研究テーマに沿った文献（原則として英文）を読み，履修学生が発表者となり，レジメを作成して紹介する。
評価方法	文献抄読のレジメの作成（25%）と，報告（25%），研究デザインの作成（50%）により評価する
課題に対するフィードバック	授業時間内でのフィードバックを基本とします。
指定図書	特に指定しない
参考書	必要に応じて随時紹介する
事前・事後学修	事前学習では，研究論文の枠組みを意識した批判的文献レビューを行ってください．事後学習では，授業時間内でのフィードバックを踏まえて自分の研究計画に反映できるポイントを吟味して下さい．
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 時間については，初回授業時に提示します． 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください．

科目名	作業療法開発学特講演習
科目責任者	田島明子
単位数他	1 単位 30 時間 秋
科目の位置付け	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	具体的実践事例を選定し、その実践の特徴を構造的に理解するための小規模な研究を行う。
到達目標	作業療法、特に地域での実践手法を一般化するための研究の方法を取得することを目指す。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：研究法と論文執筆について 第 2-5 回：作業療法学についての研究動向 第 6-8 回：研究・分析方法の選定 第 9-11 回：具体的実践事例の紹介と研究・分析方法の検討 第 12-14 回：進捗状況の報告と検討 第 15 回：学生によるミニスタディの発表

評価方法	講義への参加状況 30% 発表とレジュメ 40% レポート 30%
課題に対するフィードバック	授業時間内でフィードバックする
指定図書	キャサリン・ポープ、ニコラス・メイズ（大滝純司監訳）2008『質的研究実践ガイドー保健医療サービス向上のために（第2版）』医学書院. 萱間真美 2007『質的研究実践ノートー研究プロセスを進める clue とポイント』医学書院
参考書	適宜、講義のなかで紹介する
学修方法	具体的事例を分析しながら作業療法開発学研究の構造的理解をしていく
事前学習・課題等	事前、事後学修の課題は講義内で適宜指示する
オフィスアワー	2017 年度のオフィスアワーについては初回講義の際に提示します

科目名	作業療法学特別研究	
研究指導教員	小田原悦子 新宮尚人 宮前珠子 (研究指導教員は領域および課題によって決まる)	
研究指導教員	田島明子 伊藤信寿	
単位数他	6 単位 (180 時間) 選択 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋semester：研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）
	2 年次秋semester：適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	3 年次春semester：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	論文の完成度(70%) 第三者の評価による修正の貞節性(30%)
	3 年次秋semester：第三者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度(70%) 第三者の評価による修正の貞節性(30%)

学修方法	ディスカッション、発表
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	口頭及び、書面提出物についてはコメントを記し迅速に返却する
指定図書	なし
事前・事後学修	授業時に随時連絡
オフィスアワー	初回授業時に呈示

科目名	言語聴覚障害学特講
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 春セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	失語症学およびその治療法に関して最新の理論を含め総合的な理解と知識の体系化を図ります。高次脳機能障害や認知症の症状、臨床とリハビリテーションについて理解と知識の体系化を図ります。また、専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して、失語症学分野および高次脳機能障害や認知症における高度な臨床技術の実践や科学的研究のできる人材の育成を目指します。
到達目標	失語症学、高次脳機能障害や認知症に関する新知見を体系的に理解する。 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身につけ、視野を広げる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：さまざまな言語症状について 第 3 回：失語症の古典的分類と臨床への応用 第 4 回：神経心理学的情報処理モデルと臨床への応用 第 5 回：最近のニューロリハビリテーションの失語症治療への応用 第 6 回：失語症の予後・改善要因の研究 第 7 回：慢性期（生活期）の失語症治療の効果 第 8 回：失語症者・家族の置かれている環境 第 9 回：様々な高次脳機能障害について 第 10 回：記憶障害の症状と診断 第 11 回：記憶障害の臨床とリハビリテーション 第 12 回：前頭葉機能障害の症状と診断 第 13 回：前頭葉機能障害の臨床とリハビリテーション 第 14 回：認知症研の症状と診断 第 15 回：認知症の臨床とリハビリテーション <担当教員名> 佐藤順子・谷 哲夫 谷 哲夫 谷 哲夫 谷 哲夫 谷 哲夫 谷 哲夫 谷 哲夫 谷 哲夫 佐藤順子 佐藤順子 佐藤順子 佐藤順子 佐藤順子

学修方法	講義および討論
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・レポート 70%
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学 第2版」医学書院 藤田郁代、阿部晶子編集「高次脳機能障害学 第2版」医学書院
参考書	授業の中で適宜紹介をする
事前・事後学修	教科書の予習 授業の中で適宜指示する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 佐藤順子：3407 研究室 毎週月曜日 IV限 (junko-sa@seirei.ac.jp) 谷 哲夫：3406 研究室 毎週月曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語聴覚障害学特講演習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1 単位 (30 時間) 秋semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し文献カードを作成する。文献のクリティカル・レビュー、ディスカッションを通して、研究目的、方法を明らかにし、研究計画の立案を行う
到達目標	1. 最新の研究に基づいて、新規性のある研究計画書を立案できる 2. 研究計画書に基づき、適切なデータ収集と分析ができる 3. 研究成果を論文にまとめ、発表することができる
授業計画	<担当教員名> 佐藤順子, 谷 哲夫 <授業内容・テーマ等> 第 1 回: オリエンテーション 第 2 回: 研究計画立案までの手順について 第 3 回: 研究方法について 第 4 回: データ収集方法について 第 5 回: データの分析方法について 第 6 回-15 回: 研究計画立案に向けたディスカッション

学修方法	講義および討論
評価方法	計画書の完成度 90% 主体的参加状況 10%
課題に対するフィードバック	授業の中で適宜行う
指定図書	「言語障害の研究入門」伊藤元信，協同医書，2008 「臨床データのまとめかた」三宅由子，杏林書院，2001
参考書	なし
事前・事後学修	指定図書を事前に読んで理解する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション科学研究科 佐藤順子：3407 研究室 毎週月曜日 IV限 (junko-sa@seirei.ac.jp) 谷 哲夫：3406 研究室 毎週月曜日 III限 (tetsuo-t@seirei.ac.jp) 上記以外でもメールで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	摂食嚥下障害学特講
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2単位（30時間） 春
科目の位置付	リハビリテーション分野の高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる
科目概要	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
到達目標	1. 摂食嚥下障害に対する新知見を体系的に理解する 2. 文献抄読や討論を通して、科学的な思考を身に付ける
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：摂食嚥下障害のメカニズムに関する研究について 第3回：摂食嚥下障害の評価に関する研究について 第4回：摂食嚥下障害の治療法に関する研究について 第5回：摂食嚥下障害のリスクマネジメントに関する研究について 第6回：摂食嚥下障害の職種間連携に関する研究について 第7-14回：文献抄読 第15回：まとめ

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。
評価方法	授業参加状況 30%、文献抄読・レポート 70%
課題に対するフィードバック	講義、テキスト・文献を読み、疑問点についてディスカッションします。
指定図書	必要に応じ適宜提示する
事前・事後学修	テキストおよび文献を事前に読んで内容を理解する
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	摂食嚥下障害学特講演習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位（30時間） 秋
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	摂食嚥下障害学特講（摂食嚥下障害）を踏まえ、国内外の論文を抄読し、従来の摂食嚥下リハビリテーションの問題点を考察し、新たな評価と治療方法の開発に必要な課題とそれらを明らかにするための研究方法について検討する。
到達目標	1. 最新の研究に基づいて、新規性のある研究計画を立案できる。 2. 研究計画書に基づき、適切なデータ収集と分析ができる。 3. 研究成果を論文にまとめ、発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 各自の研究テーマに沿って、論文抄読を行い、新たな言語聴覚療法の知見を探索し、研究計画を立案する。具体的な研究計画書を作成し、データ収集、分析、博士論文の執筆を行う。 第1回：オリエンテーション 第2-4回：データ分析 第5-7回：研究計画書再検討 第8-10回：データ再収集、分析 第11-13回：論文執筆 第14回：論文提出

学修方法	グループ学習やMoodle等を用いて学修を行います。
評価方法	主体的な取り組み姿勢 50%、提出物 30%、発表 20%
課題に対するフィードバック	疑問点についてディスカッションします。
指定図書	必要に応じ適宜提示する
事前・事後学修	自ら研究テーマを絞り、客観的な資料に基いて計画的に論文執筆を進める。 テーマに関連した文献を読み、まとめる。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。

科目名	言語聴覚学特別研究	
研究指導教員	柴本 勇	
研究指導教員	佐藤順子 谷哲夫	
単位数他	6 単位（180 時間） 選択 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋semester： 研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）
	2 年次秋semester：適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	3 年次春semester：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	論文の完成度（70%） 第三者の評価による修正の貞節性（30%）
	3 年次秋semester：第三者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度（70%） 第三者の評価による修正の貞節性（30%）

学修方法	ディスカッション、発表
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	口頭及び、書面提出物についてはコメントを記し迅速に返却する
指定図書	なし
事前・事後学修	授業時に随時連絡
オフィスアワー	初回授業時に呈示